

迫る開門「宝の海」再生への道

太良のノリ漁師 大鋸武浩さん

【毎日新聞・4月27日】国営諫早湾干拓事業(諫干)の潮受け堤防開門の調査が行われる今年12月まで、残り約8カ月と迫った。漁業被害を訴えた県内の漁民らが、開門を求めた訴訟で「5年間の常時開門」を命じた福岡高裁判決が確定したのは10年12月。3年間の猶予期間を経て、漁民らが望む開門調査は果たされるのか。「宝の海」有明海再生の願いはかなうのか。期待や不安の声を県内関係者らに聞いた。

◆一度失われたら戻ってこない―大鋸武浩さん(43)

〈有明海で今季のノリ養殖は例年並みの収穫だった〉

病害などの影響で例年の5割程度に落ち込んだ昨季に比べ、今季は秋芽(あきめ)ノリ(秋ごろの収穫)が良く、例年並みの収穫を確保できました。ただ、冬は駄目。西部(鹿島市以西)は6季連続で、冬の赤潮が発生しました。赤潮は色落ちなど品質低下を招きます。一般的に水温が高い時期に起こることが多いのに、初めて冬に大規模に出現してから、ずっとですよ。最初は「たまたまだろう」とみんな思ってたけど、

こうなると、出ない方が偶然、出て当たり前になる。俺は諫干の堤防閉め切りによって、有明海の潮流が変化したこと、ため込んだ(堤防で閉め切れ)汚れた貯水池の水が、排水されたことによる影響だと思っています。

〈自身がノリ養殖の道に入ったのは17年前、20代半ばの頃だった〉

寝る間もなく働く父の姿を見ていたし、継ぐ気はなかった。ただ福岡大学を卒業した頃、バブル経済が崩壊しました。就職するのも先が見えず、長男でしたし、太良(たら)に戻ることを決めました。堤防が閉め切られたのは、その直後、97年のことでした。

その3年後くらいから、秋口の赤潮被害に苦しめられるようになりまして。2000年代になると、ノリの水揚げが10分1の程度になり、父親が取り組んでいた(太良特産、高級二枚貝の)タイラギも不漁になってしまった。04年以降は、アサリの養殖もできなくなり、年々、追い詰められている気がします。

ノリは技術を継承するにも、数千円のものを受け継ぐのも、伝統芸能みたいなものです。燃料代や網などの資材代で、最低年間400万円程度の経費が必要になる。「3年に1度は大不作」になってしまったら、脱漁師の生活は回らないんです。脱

サラして取り組む、みたいなことは難しく、一度失われたら、戻ってこない。いつまで有明海でノリを続けることができるのかを、常に考えていかなければなりません。そういったこともあって、潮受け堤防の開門訴訟に04年から参加しました。

諫早湾干拓事業と訴訟の経緯

大規模農地の造成や高潮などの防災対策を目的とした事業。潮受け堤防で諫早湾の奥を閉め切って670ヘクタールの農地や農業用水として使う調整池を整備した。08年に工事が完了し、営農が始まった。事業が漁業不振の原因として有明海沿岸の漁業者が起こした訴訟では、福岡高裁が10年12月、排水門を5年間常時開放するよう命令。当時の菅直人首相が上告を断念して判決が確定した。

国は今年12月に潮受け堤防排水門の開け方が小さい「制限開門」を実施する方針を明らかにしている。

1986年10月 事業着工

97年4月 潮受け堤防で諫早湾奥を閉め切る

2000年冬 有明海で養殖ノリが記録的な不漁

02年4月 国が約1カ月間の短期開門調査を実施

11月 沿岸4県の漁民らが国に諫干工事差し止めを求め訴訟を佐賀地裁に起こす

04年8月 佐賀地裁が工事差し止めを命じる仮処分決定を出す

05年5月 福岡高裁が佐賀地裁決定の差し止め命令を取り消す

9月 福岡高裁の決定が最高裁で確定

10月 漁民らが堤防開門を求める新たな仮処分を佐賀地裁に申し立て

06年11月 原告側が佐賀地裁訴訟の請求を「堤防撤去、開門」に変更

08年3月 諫干、事業完了

4月 干拓農地で営農を開始

6月 漁業者らが潮受け堤防排水門の開門を求めた訴訟で、佐賀地裁は3年以内に5年間の「常時開門」を命じる

7月 自民党の若林正俊農相が開門の影響を探る環境影響評価(アセスメント)実施を表明

10年12月 2審福岡高裁も開門を命じ、民主党の菅直人首相が上告を断念、確定

11年4月 長崎県農業振興公社や入植者らが開門差し止めを求めて長崎地裁に提訴

6月 開門を求めた別の訴訟で、長崎地裁は開門を認めない判決を下す。漁業被害は一部認め

9月 鹿野道彦農相が制限開門の意向を長崎県知事に表明

12年4月 鹿野農相が佐賀県を訪問し「制限開門」を改めて表明

8月 農水省が開門調査による影響をまとめた環境影響評価を公表

11月 郡司彰農相が開門調査を13年12月に始めると長崎県知事に表明

同月 佐賀・福岡両県で、タイラギ漁が7季ぶりに休漁を決定

13年2月 林芳正農相が自民党の政権復帰後、初めて佐賀長崎を訪問